

【事業の実施方針】

山口県オリジナルリンドウ「西京の初夏」は中山間地域の水田転作作物として期待されており、栽培実証ほを設置して定植1年目～2年目の栽培管理技術を検討し、得られた知見を元に栽培マニュアルを作成し、中山間地への栽培普及・定着を図る。

【成果目標及び達成状況】(H25. 月末現在)

平成23年度(基準年): 0 ha

平成24年度 : **0.44 ha**

平成27年度(目標年): 2ha

新技術の内容

「西京の初夏」は山口県農林総合技術センターが育成したリンドウのオリジナル品種で、平成23年に種苗登録申請を出願した。早生で6月下旬頃に開花し、花色は明るい青紫色で、高温には比較的強い。

実施体制図(研究・行政等との連携、役割分担等)

農業革新支援専門員
・事業実施計画の作成
・実証ほ設置運営指導

花き振興センター
・育種開発
・県花き連事務局

4普及指導センター
・実証ほ運営管理
・生育調査
・気温・地温調査

事務局用務

実証ほ農家
・実証ほ栽培管理
・作業記帳

山口県オリジナルリンドウ研究会

24年度事業の取組内容

【実証ほ設置(4普及指導センター:7ほ場)(7月)】

【現地検討会開催3回(8、9、3月)】

実証ほ担当普及指導員、実証ほ農家、農業革新支援専門員が、7カ所の実証ほで生育状況等の現地検討実施。

【先進地視察1回(9月)】

県オリジナルリンドウの開発と普及を行っている岡山県において、中心産地のJA阿新管内の先進地視察を実施。

【成績検討会(1回)(11月)】

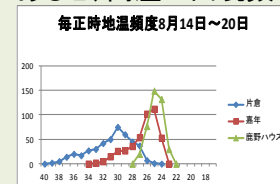
やまぐちオリジナルリンドウ研究会において、実証ほの生育状況等を革新支援専門員が発表し、地帯別の生育特性を検討。



オリジナルリンドウ研究会現地検討会

技術実証の成績等(H24)

- ・実証ほの設置場所の標高は20m～400mであったが、9月になっても葉色が良かったのは、標高が高い所と遮光を行った所であった。
- ・標高が高い地帯は、高温の出現頻度が低い。遮光資材があると、高温の出現頻度が低い(特に地温)。
- ・遮光率35%の遮光資材を高温期に展帳した区では、無遮光に比べ、気温・地温上昇抑制効果が見られ、草丈、茎数が多く、欠株が少なかった。
- ・春の発芽は、標高が低いほど早い。



技術実証及び技術普及における課題(H24)

- ・夏期の30%の遮光資材の展帳は、気温・地温抑制効果が認められたが、適正な遮光率や遮光期間が不明である。
- ・今年度の実証ほは、個人農家のほ場に設置したが、今後、中山間地域の集落営農法人の水田転作作物として普及させるために、集落営農法人での実証が必要である。
- ・リンドウの定植1年目の管理で、株元の除草作業の省力化が必要である。

次年度に向けた課題への対応方針

- ・リンドウ栽培に適正な遮光率や遮光期間について実証ほで検討する。
- ・集落営農法人での実証ほを新規に1カ所設ける。
- ・ポリマルチの下に再生紙マルチを設置し、植え穴を小さくすることにより株元の雑草発生を抑制し、除草作業の省力効果を実証する。
- ・実証ほで得られた知見等を元に栽培マニュアルを作成し、農家に配布して栽培技術の向上を図る。